

Title	R&Dの国際化戦略 - 効率性と創造性を求めて -
Sub Title	
Author	吉田勝彦(Yoshida, Katsuhiko) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第889号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0889">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0889</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	吉田 勝彦 (藤沢薬品工業株式会社)	主査 奥村 昭博 副査 青井 倫一 姉川 知史
所属	奥村 昭博 研究室	

## R & D の 国 際 化 戦 略

－効率性と創造性を求めて－

本研究は、近年における技術革新と事業の国際化の進展に伴い活発化してきた研究開発の国際化に着目し、その最適展開パターンを研究開発戦略と国際研究開発組織の整合性という観点で捉え、成果の最大化につながる両者の関係について仮説を構築することを第一の目的としている。そして、研究対象業界として選定した医薬品業界のサンプル企業の比較事例研究を通じて、その仮説の検証を試みることを第二の目的としている。

本研究では、まず、既存研究に基づき、研究開発戦略と国際研究開発組織の両者について、「創造性」と「効率性」という二次元に基づく類型化をし、その両者における整合性のある関係を仮説として概念的に導き出している。次に、研究の対象とした医薬品業界において、仮説における類型を適用するのにふさわしいと考えられる分類方法を考案し、その方法を用いて、対象企業の研究開発戦略と国際研究開発組織の分類並びに成果の把握を行っている。そして、その結果に基づき、仮説の検証を行っている。

その結果、現時点では本研究の類型において「グローバル型」とした組織形態の時のみ仮説で指摘するような関係が成立するという結果になった。そして、仮説において「創造性」、「効率性」に両面において優れると考察した類型、「トランスナショナル型」については、むしろ全く反対の結果となっている。

そこで、仮説通りの支持を得られなかった原因について考察を加え、それについての考察を通じて、新たな整合性のある関係についての仮説を導き出すとともに、概念上理想とされる「トランスナショナル型」に到達するまでのプロセスについての仮説も導き出している。